

# ミャンマー人身取引被害者自立支援のための能力向上プロジェクト

No.35/ 2015 年 11 月 12 日

ミャンマーでは、強制結婚、強制労働、性的搾取などの人身取引被害者が多く発生しています。経済活動のグローバル化が進み、人の移動が増加し、それに伴い今後ますます人身取引被害も増加することも危惧されます。JICA ではミャンマーで 2012 年より被害者支援を行う関係者の能力強化を目的として、本プロジェクトを実施しています。

## ヤンゴンからミンガラバー(こんにちは)

### 人身取引被害者保護ハンドブックお披露目式&ワークショップの開催 (11 月 3 日)

プロジェクトでは、人身取引被害者への支援を行うソーシャルワーカーなど支援提供者が携帯するハンドブックの作成を行ってきました。



完成した人身取引被害者支援  
ハンドブック

ハンドブックは 4 部構成となっており、第一部は人身取引に関する基本的な情報、第二部は被害者の保護に関して、第三部はソーシャルワークの基本となり、これ一冊で人身取引被害者の保護にかかわる基本的な知識が網羅されています。

さらに第四部は「優良事例」として、プロジェクトの被害者支援活動の中から特に参考となる事例を記載しています。具体的な事例を読むことにより、実際の支援方法や連携先がイメージしやすくなっています。

本ハンドブックは、当プロジェクトが養成したトレーナー（福祉省のソーシャルワーカーや警察の人身取引担当、さらにミャンマー女性連盟など）が編集委員として執筆し、さらに実際に被害者保護に携わる多くの関係者でワークショップを行いながら、「実際に使える」ハンドブックとして作成しました。

人身取引被害者保護に関するマニュアルやハンドブックは、すでに国際機関などで発行されていますが、本部作成のものをミャンマー語に翻訳しただけであったり、ミャンマーの実情にあっていない部分

もあつたりで、被害者保護の現場で使いにくいとの声もききます。本ハンドブックは、「ミャンマー人によるミャンマー人のためのハンドブック」として、幅広く活用されるのが期待されます。

11 月 3 日に、このハンドブックのお披露目式および今後の普及に向けたワークショップをミャンマーの首都、ネピドーで開催しました。関係者の高い評価と期待を反映して、福祉省、ミャンマー警察、JICA ミャンマー事務所の他、各省庁の人身取引対策中央委員会代表、また ILO、IOM などの国際機関やアメリカ大使館での人身取引対策担当者などの出席のもとで実施されました。



式典の様子 100 名以上の参加者のもと盛大に行われました

式典では関係者のスピーチのあと、甲木チーフアドバイザーがプロジェクトの今までの活動と成果、そしてハンドブックについてプレゼンテーションを行いました。

その後、各章の作成責任者や執筆者が、ハンドブックの内容について説明し、午前の式典を終えました。

午後にはハンドブックワークショップとして、プロジェクトで養成したトレーナー約 50 名が、今後このハンドブックを利用して具体的な活動に展開していくための活動計画作りを行いました。



ハンドブックを活用した活動計画作りのグループワーク

今までプロジェクトで実施した研修やワークショップはすべてヤンゴンで開催してきましたが、今回はじめて、ヤンゴンから北に 400 km 離れたネピドーで行いました。

首都での開催のため多くの政府関係者や女性連盟の会長などの出席もいただき、プロジェクトへの理解の促進、今後のハンドブックの普及に大きな意味があったと思います。

ハンドブックは福祉省社会福祉局や警察の担当職員全員に配布しますが、他にも、労働省からはミャンマー各地の移住労働者情報センターの職員用に 200 部活用したい、ミャンマー女性連盟ではハンドブックを使って研修を行いたい、など多くの反響がありました。

今後プロジェクトでは、養成したトレーナーが講師となり、全国各地でハンドブックを使ったコミュニティ研修を実施しますが、人身取引被害者保護にかかわる他の関連機関に広く活用してもらうための取り組みも続けていきます。

#### 「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」の参加（10月18日から10月31日）

日本で JICA が実施する課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」に、毎年ミャンマーからもプロジェクト活動の一環として参加しています。今年は社会福祉局ソーシャルワーカ

ー2名（うち1名は人身取引情報センターのスタッフ）、警察の人身取引対策担当職員1名、ミャンマー女性連盟1名の計4名が参加し、甲木チーフアドバイザーも参加しました。

警察の職員は当プロジェクトの担当者であり、後の3名は全員プロジェクトで養成したトレーナーで、人身取引対策や被害者支援の現場で日々活動し、プロジェクトを支えてくれている人たちです。実務経験は豊富な方たちですが日常業務で英語を使うことは少なく、英語力がやや心配でした。

しかし研修参加決定後の猛勉強も効果があったようで、他のアジア各国からの参加者とも積極的に交流し、ミャンマーでの人身取引対策状況の発表や成果発表などの準備も4人でしっかり行い、とても良い発表をされました。



グループワークでは各国からの参加者が議論し合う

今年度の新プログラム「夜の街歩きスタディツアー」では、日本のいわゆる「JK（女子高生）ビジネス」の実態に触れて驚いたり、また訪問したシェルターやホットラインでのきめ細かい被害者支援から学ぶことも多かったようで、充実した研修参加になったようです。

4名ともこれからのミャンマーでの被害者支援に重要な役割を果たす人たちで、今回の研修で学んだことや、日本での経験、他国からの参加者と築いたネットワークを活かし、さらに活動の幅を広げてくれることを期待しています。